1995年8月10日第三種郵便物許可（毎週1回水曜日発行）2017年3月1日発行 増刊通巻第6976号SSKS 月刊きょうされんTOMO No.443付録

きょうされん第40回全国大会 in 北海道（9月15・16日開催）実行委員会事務局・広報局　発行　第5号

つなげよう時計台の街から

〒065-0033 札幌市東区北33条東14丁目5-1 社会福祉法人さっぽろひかり福祉会内事務局
TEL:011-743-3009 / FAX:011-731-0211

『文化企画（1日目）”イランカラプテ”こんにちはからはじめよう 企画にあたりアイヌ文化学習会を開催』

イランカラプテ
「こんにちは」からはじめよう。

アイヌ文化学習会

全国大会の企画の一つにもなっているアイヌ文化企画を行うにあたり、私たち自身がまずアイヌ文化を学ぶ必要があることから、学習会を開催しました。学習会は、2月25日（土）社会福祉法人さっぽろひかり福祉会内にて江別アイヌ協会会長である清水裕二氏を招いて行われました。

「北海道の歴史は、アイヌの歴史。」「差別はなぜ起きてしまうのか？」

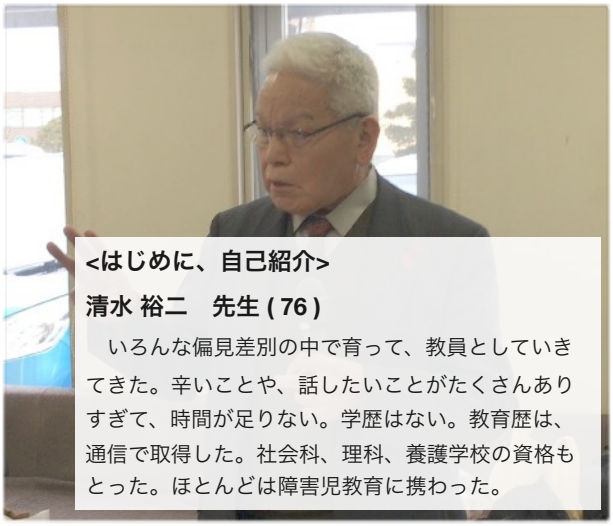
自身もアイヌの血を受け継ぐ清水裕二氏より、幼い頃から受け続けてきた差別や偏見、障害と教育についてや、アイヌの遺骨問題についてなどお話して頂きました。

<アイヌ舞踊とは？>

アイヌ舞踊とは、そもそもアイヌの家庭での祝宴などで踊ったり歌ったりするもの。生活と芸能および信仰が結びついているという特徴。よって「オリンピックのステージに立つなんて、心をさらけ出すようなものでありえない！」という意見もある。

<障害を伴う家族について>

アイヌ民族の中にも障害者は当然いる。家族として大事にしている。



<はじめに、自己紹介>

清水 裕二　先生（76）

いろんな偏見差別の中で育って、教員としていきてきた。辛いことや、話したいことがたくさんありすぎて、時間が足りない。学歴はない。教育歴は、通信で取得した。社会科、理科、養護学校の資格もとった。ほとんどは障害児教育に携わった。

<障害児教育に携わってきた清水先生の思う学校教育の課題>

職場でずっと嫌だったのが差別。職員室でもあった。針のむしろの職場だった。ある時、泣いている女の子がいた。隣の男の子が何か言ったのがわかった。教壇の目の前まで呼びつけ回れ右をさせ、

「あの子に言ったことをみんなの前で話してみろ」「…先生、ごめんなさい」

泣かされた女の子はアイヌの子だった。「アイヌの子だろ。」と差別されたのだった。私は差別は許せなかった。怒るときは本気で怒った。お礼参りを来ることも覚悟していた。私に怒られた男の子は卒業式には来なかった。お母さんとお父さんと息子と３人で後からやってきた。一升瓶を持ってきた父親から「うちの息子を大人にしてくれてありがとうございます！」と言われた。生徒指導に熱を入れていた。警察署に33回泊まった。生徒が警察にお世話になったときは、子供を警察から引き取ることはなかった。先生は親には一瞬たりともなれないからだ。電話をかけ、親が引き取りに来ないときは生徒と警察署に泊まった。校長として赴任した現場は生徒を呼び捨てにしている職場だった。子供を呼び捨てにしない先生がいた。子供の立場になって接してくれる先生だった。全校で呼び捨てを禁止にした。

< アイヌの遺骨はアイヌのもとへ >

現在全国12大学に1636体を越すアイヌ人骨がある。先祖の魂（遺骨）を返却してもらわないで何がアイヌだ！北大が盗掘したにもかかわらず、一銭もコタンに返すことはなかった。箱などに遺骨を入れて返却する気持ちもなかった。

親父、お袋、はアイヌのことは何一つ教えてくれなかったけれど一つだけ覚えていることがある。遠くの親戚がなくなった時に、「葬式をするんじゃない！バカなことをするな！」魂が動き回る！と憤怒していた。

「北海道150年の歴史」と高橋知事が記者会見。それに対して札幌大学の学長が「もっと早くからアイヌがいるんだけど？」と発言した新聞記事があった。北海道の歴史を語ることはアイヌの歴史を語ること。そういう理解をしてほしい。

< 社会に訴えたいことは？ >

文化を正しく理解して、差別を断ち切ってほしい！同時に今大会に望むことでもある。

<アイヌの歴史について>

13世紀くらいからアイヌ文化ができたと言われている。鎌倉時代くらいから。アイヌ文化は他所から来たという事実はない。いつからいたのかは定かになっていない。民族の継続性として、紀元前からいたのかもしれないと思う。擦文文化の後にアイヌ文化ができたとかも聞かれる。

<アイヌの誇りについて>　（琉球新聞を参照）

アイヌとして何が一番誇りに持てるかという質問があった。まだ子供の頃、犬が怖かった。

「あ、イヌが来た。」と周りの子供に嘲笑された。帰宅してお袋にそのことを話すと、「ばかなことを言ってないで、勉強してシャモ（和人）になれ。」と言われた。勉強して、学校内で１番、２番、３番と上位をキープしてとった。

人間として真剣に生きて来たことが誇りです。家族を大事にすることも忘れてはいけない。

<アイヌ紋様について>

「アイヌ紋様は、シンプルで綺麗だ。」とよく聞く。アイヌ紋様は、着物などのファッションとしてできた。

紋様の発展過程→祖母から母へ　母から娘へ　孫へとして、魔除けの紋様としても受け継がれてきた。

札幌ブロック交流会

きょうされん北海道支部札幌ブロック長　片山和恵

２０１７年２月４日（土）、札幌市中央区「イタリアンロジックすすきの店」で、札幌ブロック交流会を開催しました。札幌の繁華街である「すすきの」、イタリアンレストランを借り切りで、いつもと少し違う、ちょっとおしゃれな雰囲気の中で行なわれました。

この交流会開催のきっかけは、“９月の全国大会に団結してとりくめるようにするためにはどうしたら良いか？”とブロック会議で検討し、“きょうされんの仲間同士が、署名やバザー活動ばかりではなく、楽しい機会も作り交流することが大切“と実施することとなりました。

当日、参加者は８６名。参加事業所ごとの紹介コーナー、全員参加のじゃんけんゲームは各事業所から景品を提供してもらいました。特に、日本ハムファイターズのＴシャツとカレンダーは激しい争奪戦となりました。また、全国大会ＰＲとして、札幌ブロック長特別賞として、全国大会グッズ・ラベンダー色のＴシャツを提供させていただきました。

小畑事務局長からは、全国大会の意気込みと、成功に向けた熱い思いが訴えられ、最後に、「つなげよう時計台の街から」を板谷みきょうさんに手話を教えていただきながら、みんなで歌いました。

次は、３月２７日（月）に、地下歩行空間で、バザーと署名活動、全国大会ＰＲ行動を予定しています。

札幌ブロックの仲間のみなさん！力を結集して、がんばりましょう！